

核禁会議で「証言の大運動」

被爆者や若者 きょう米へ出発

ビキニ遺族 下本さん(高知市)も

米ニューヨークの国連本部で開かれる核兵器禁止条約第3回締約国会議に参加するため、日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の被爆者が2日に日本を出発する。被団協は昨年、ノーベル平和賞を受賞。被爆80年の今年は「証言の大運動をしたい」と意気込む声も出ている。非政府組織(NGO)の若者や国会議員も渡米し、原爆投下国で廃絶に向けて活動する。

会議は現地時間3〜7日に開催。被団協は、いずれも事務局次長の和田征子さん(81)〓横浜市〓と浜住治郎さん(79)〓東京都稲城市〓を派遣する。広島の胎内被爆者の浜住さんは会議初日に演説予定で、「被団協の歩みや胎内被爆者の存在を知ってもらいたい」と意気込む。長崎で被爆した和田さんは、大学や教会で証言

を行う。

広島市出身の被爆者でカナダ在住のサロー節子さん(93)も渡米するという。東京、広島、長崎の高校生と交流。一般社団法人「核兵器をなくす日本キャンペーン」は事務局の浅野英男さん(28)らが現地から連日オンラインで中継し、会議のポイントや様子を報告する。

学生団体「KNOW N UKES TOKYO」や「核政策を知りたい広島若者有権者の会」(カクワカ島)のメンバーも現地入りし、配信中継に登場。カクワカ島共同代表の田中美穂さん(30)は「海外の人とも交流し、廃絶に向けて新たな視点を得たい」と抱負を語った。

1954年の米国による太平洋ビキニ環礁での水爆

実験により、周辺海域で被ばくしたとされる元漁船員の長女、下本節子さん(74)〓高知市〓も会議に合わせ初めて渡米し、イベントで発言予定だ。

国会議員では、自民党が派遣を見送った一方、公明、立民、共産、れいわ、社民の各党は議員を派遣予定。立民の森本真治参院議員は現地4日の会合で発言する見通し。



記者会見する被団協事務局次長の浜住治郎さん(左)と和田征子さん
=2月、東京都文京区